

スズメのつがい外父性

浮気された雄は、子育てに非協力的になる？

坂本 春菜（北海道大学理学院自然史科学専攻修士1年）

はじめに



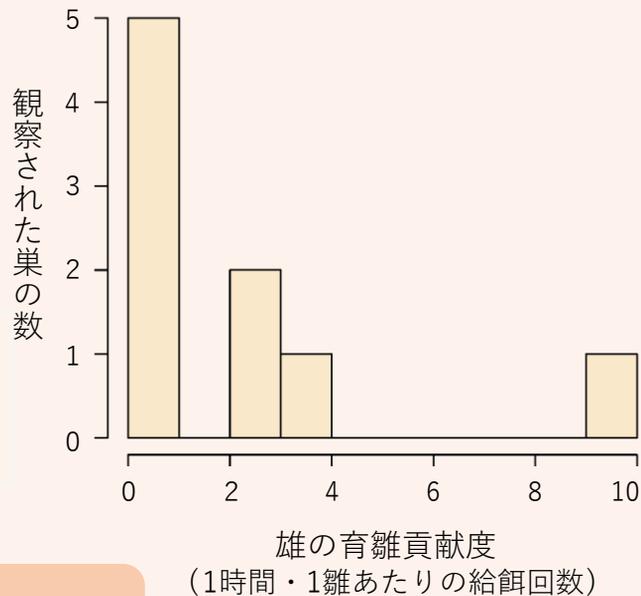
餌を食べて、ちゅんちゅんおしゃべりして、ねぐらに帰る
群れで行動していて、仲がよさそう

繁殖期も縄張りをもたず、高密度で繁殖する（巣間の最近接距離は1m）。

子育ても夫婦で仲良くと思いきや…

**雄が必ず子育てに協力するとは限らず、
各巣の雄の育雛貢献度には
大きなばらつきが見られた。**

方法：2019年3~8月、北海道大学構内に巣箱を設置し、
繁殖調査を行った。雛の孵化後12日目にビデオを
かけ、給餌回数から雄の育雛貢献度を調べた。



なぜ雄の育雛貢献度はばらつくのか
→各巣のつがい外父性率と関係している？

雌も繁殖成功を高め、頻繁につがい外交尾（浮気）を求めることが分かってきた。

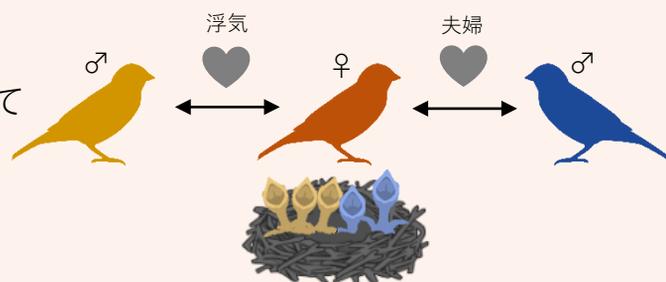
雄は、巣内につがい相手以外の子が含まれている可能性が高くなると

子育てをする利益が減少するため、子への給餌を減らすと考えられる。

しかし、**各巣のつがい外父性率と**

それに応じた雄の育雛貢献度の変化について

よく分かっていない。



目的

雌のつがい外交尾の頻度が上がると雄は子への給餌回数を減らす

という仮説を検証する。



方法

北海道大学札幌キャンパス内の約150個の巣箱（設置済み）で、繁殖モニタリングを行う。足環による個体識別、計測、採血をする。

①つがい外父性率を算出する

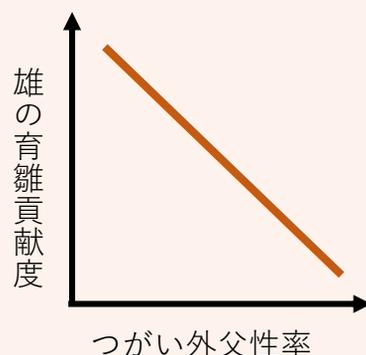
親子の血液サンプル（遺伝試料）から親子関係を判定し、各巣のつがい外父性率を算出する。

②雄の育雛貢献度を調べる

雛の孵化後12日目にビデオカメラを設置し、雄の給餌回数（/1雛/1時間）から育雛貢献度を調べる。

③つがい外父性率と雄の育雛貢献度の関連性をみる

右図のような結果が予測される。



足環による個体識別



羽や嘴の長さなどを計測し採血を行う



支援金の使途

いただいたご支援は、野外調査と遺伝解析の費用に充てられます。